

30年産米の作柄と品質の概況

水稲作柄概況調査 (9月15日現在)

【滋賀県】
10a 当たりの
予想収量512kg
(前年差△5kg)

【湖北】
10a 当たりの
予想収量493kg
(前年差△5kg)



滋賀県
10a 当たりの
予想収量
(9月15日現在)

【湖南】
10a 当たりの
予想収量521kg
(前年差△5kg)

【9月28日近畿農政局公表】

※()内は前年差。

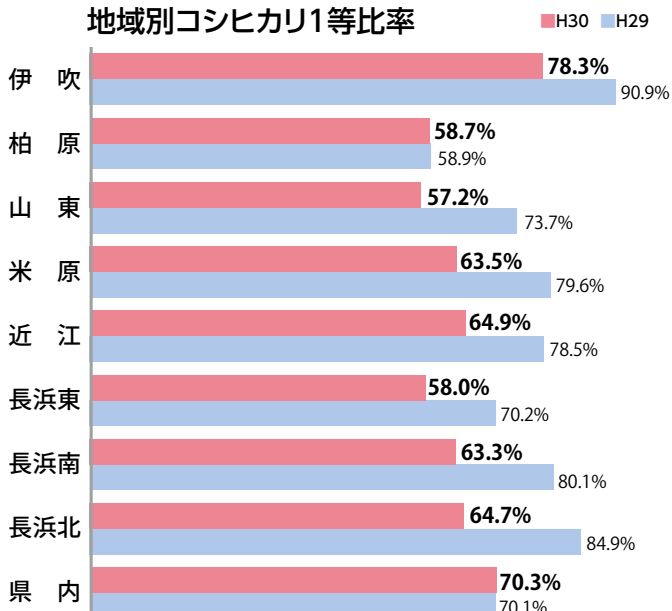
※1.70mmのふるい目幅で選別された玄米重量となります。

滋賀県の平成30年産水稲の予想収量と作況指数が9月28日に近畿農政局より公表されました。滋賀県の予想収量は512kgで昨年より5kg減、作況指数は99となり平年並みとなりました。

作柄概況・・・

9月15日現在の作柄は、出穂期から8月下旬までの気温及び日照時間が平年を上回ったことから「平年並み」となりましたが、7月中旬から高温が続き、登熟期前半は高温障害、後半は日照不足による登熟不良等の影響から、未熟粒が増加し品質低下に繋がったと考えられます。また、収穫前の台風と長雨による倒伏や刈

地域別コシヒカリ1等比率



(9月末地場検査実績集計)

り遅れにより穂発芽などの風水害も見られました。

地域別コシヒカリ1等比率

30年産米の地場検査結果は左記の結果となり、レーク伊吹管内全体のコシヒカリの1等比率は63.1%で、前年の82.1%より大幅減少となりました。

昨年同様、気象変動が大きかったことにより、特に今年度は、背白・基部における白未熟粒や胴割粒により、1等比率が低下したと考えられます。

例年多い2等以下の格付と主な要因

格付種類	種類解説	要因
除青未熟粒	充実の不十分な粒で、玄米の厚みが薄く、縦溝が深い。歪みや変形したものもある	● 籾数過多 ● 登熟期の稲体の活力低下
心白・腹白粒 (白未熟粒)	乳白粒 胚乳部に白色不透明な部分がある部分的にデンプン供給不足で発生	● 登熟初期の高温・日照不足 ● 籾数過多・総籾数30,000粒/mを上回ると発生率が高い
	背白粒 米粒の背部に白色不透明な部分がある	
	基部未熟 米粒の基部に白色不透明な部分がある	
胴割粒	米粒に亀裂がある。	● 出穂後10日間の高温 ● 早期落水・刈遅れ
もみ混入	玄米中に籾が混合する。(1000粒の内、約5粒以上は2等)	● 機械設定・調製諒・水分ムラ
カメムシ着色粒	カメムシによる吸汁被害 イネシンガレセンチュウによる被害粒 (1000粒の内、約3粒以上は2等)	● 畦畔雑草でのカメムシ類の増殖・適期防除の未実施 ● 種子消毒 (イネシンガレセンチュウ)

例年多い2等以下の格付と主な要因

平成30年産は、昨年に引き続き、気象変動の大きい年となりました。次年度に向け、気象変動に負けない対策が重要です。詳細は、「平成31年産栽培手引き」に記載させていただきます。

